

あり寛永中、由良の故府をこゝに移してより以來士民富庶なり。

〔南海通紀十四〕羽柴筑前守調略淡州記

是ヨリ先ニ淡州ノ住人等、播州へ因ミ寄テ和平ヲナス故ニ、仙石權兵衛尉ヲ淡州へ渡海セシメテ、須本ノ城ニ居住セシム、夫ヨリ淡州ノ諸將ト相議シテ、阿州ノ援兵ヲ出サントス、○中、三好存保、阿州勝瑞ノ城ヲ相渡スニ於テハ、仙石氏ハ淡州ノ諸將ヲ召連レ入城セシムベシ、其時ハ官兵衛尉○黒田、淡州志智ノ城ニ移リ、阿州ノ兵將ノ人質ヲ取り、悉ク志智ノ城ヘ送入テ相固メ、丈夫ノ調略ヲナスベシト定ラル。

〔宇野主水記〕七月○天正十三年三日、土州之長曾我部御成敗ニ付テ、今日秀吉御自身、淡州洲本表迄御進發云々。○下略

〔淡路常盤草津名郡〕由良浦、洲本府城を距ること三里、東南海濱にあり、紀伊國海部郡を去ること海程三里なり、長汀海に出て港中廣く、諸州の海舶來り泊ること多し、國君里邸あり、漁家商家軒を雙ぶ、大なる鱣魚ありて港中に來往すれども、港を利して人を害する事なしと云、漁子は多く魚蝦を取て諸廣邑に行き、海婦は大石花を負戴して國中に販る、この物石花のとく、凍子として酢豉に和して多く食すれども毒なし、畿内の人は食せずと聞り、また板裙帶イタツカヒを出す、海菜を方に重ねて乾したる也、又白海苔ホタテノリあり、凍子となして大石花に勝れり、山中には駒鳥三光鶯などあり、兒輩捕て籠にす、洲崎の砂松伴島の綠螺賞すべし、伴島は是より一里沖にあり、紀伊國に隸く、

〔阿州將奇記〕足利義冬タケミコロト之系圖

貴康、冬康二男也、但猶子にて信康より年兄なるよし、號安宅河内守、淡州由良に居城す。

〔當宮緣事抄〕左辨官下

石清水八幡宮并宿院極樂寺

應永停止宮寺并極樂寺庄園領家預所下司公文等、或號有先祖讓狀、或稱相傳文書、致異論企掠